



## 林野庁長官感謝状伝達式を開催

### 「飽田地区青少年健全育成連絡協議会 飽田の森を育てる会」が国民の森林づくり推進功労者に

#### 【熊本森林管理署】

林野庁では、毎年度「国民の森林」である国有林において、森林づくりや森林環境保護、国産材利用の推進など「国民の森林づくり」の推進に貢献している方々や団体等に対して、林野庁長官より「国民の森林づくり推進功労者に対する感謝状」の贈呈を行っています。

今年度は、当署管内で活動している「飽田地区青少年健全育成連絡協議会 飽田の森を育てる会」が九州森林管理局管内で唯一贈呈されることとなり、5月20日に当署会議室において、感謝状の伝達式を開催しました。

同協議会は、当署管内南阿蘇村の国有林において平成12年に分収造林地「飽田の森」を設定し、地域の児童・生徒や地域住民により森林整備を実施するとともに、森林環境教育や憩いの場として活用し、

平成26年からは間伐材の有効利用のため、生徒の名札づくり等に取り組みなど、国民参加の森林づくりの模範となる活動を展開されていることが評価されました。



川畑署長から感謝状を贈呈

整備官の司会進行により、まず川畑充郎署長から「当署としても引き続き貴会の活動を全面的にバックアップしますので、今後とも国民参加の森林づくりの模範となるように積極的な活動をお願いします」とお祝いの言葉を伝え、同協議会の前出浩一会長に感謝状を贈呈しました。前出浩一会長からは「飽

田の森を次の世代に繋いでいき、他の団体や学校の模範となるように、引き続き活動していきます」とのお礼の言葉が述べられ、その後参加者全員で記念写真撮影を行い伝達式は終了しました。

なお、伝達式の模様は地元新聞や経済誌にも取り上げられ県民に紹介されましたが、今回の贈呈を契機として同協議会の活動がますます促進されることが期待されます。

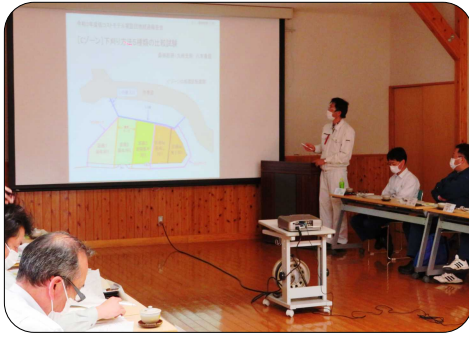


参加者全員で記念写真

# 「低コストモデル実証団地」の 成果集発刊へ

平成29年度に設定した「低コストモデル実証団地」（以下、「実証団地」という。）は、

森林総合研究所九州支所、九州育種場、宮崎大学、九州森林管理局、森林技術・支援センター及び熊本南部森林管理署との共同試験地として造林コストの低減を目標に設定された貴重なフィールドです。熊本県人吉市の国有林内に設定された「実証団地」は、人吉市の中心部から30分の場所であり、比較的気軽に訪れることが可能で、これまで遠く



経過報告会の様子

が現地を訪れられ、低コスト造林の普及に努めているところです。

「実証団地」は設定から5年目となり、4月23日に開催した経過報告会において試験研究結果の成果集を各試験研究機関のご協力により発刊することとなりました（発刊等の情報についてはホームページでお知らせします）。

「実証団地」は11のゾーンで14の試験課題についてそれぞれ試験研究を行っています。当初設定した試験期間の最終年でもある今年度で試験結果等をまとめ、さらに、引き続き試験研究を行うゾーン、試験内容を変更等して行うゾーンも設定する予定としています。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、現地検討会を9月2日と11月4日に予定しています。設定から5年経過した、今の「実証団地」の状況を見ていただきたいと思っておりますのでご参加

は東北森林管理局や中華民国（台湾）の林業試験場など約1300人を超える林業関係者等

をお待ちしております。  
（担当：技術普及課）



現地検討会の様子

## 令和3年度屋久島世界遺産地域 連絡会議の開催について

屋久島世界遺産地域連絡会議が4月28日に、屋久島町役場（やくしまホール）において開催されました。

冒頭、環境省九州地方環境事務所の岡本光之所長による事務局代表挨拶の後、当局の山根則彦計画保全部長から「今回の会議から新たに地域関係機関・団体、有識者が加わり新たな体制でスタートす

ることから、世界遺産管理に係る情報共有と施策等の合意形成を図る場として、これまでに有意義な会議となることを期待。また、本会議の主要議題となる世界遺産地域管理計画の改定に当たっては、当局のこれまでの取組を踏まえ、皆さま方と情報共有を進めながらしっかりと取り組んで参りたい」と挨拶しました。今回の会議では、①地域連絡会議の会則改訂と作業部会の設置②世界遺産管理の現状③地域管理計画の改定④今年度の主な事業計画⑤関連する協議会・検討会等の情報共有などについて報告と意見交換が行われました。

「これまでは様々な話題が出されても、それを具体的にどう展開するかがほとんど議論されていない。個々の問題について議論を深める必要がある」、「管理計画改定といった大事な話は島民にも幅広く伝えてほしい」などの意見がありました。当局では、今後も本会議の構成メンバーと連携しながら、屋久島世界遺産地域の貴重な自然環境を適正に保全・管理していくこととしています。  
（担当：計画課）

今回新たに構成メンバーとなった地域関係機関・団体の代表者からは、遺産管理に係る今後の取組などについて説明があり、本会議に対しては、「屋久島の本当の魅力は何かというのをこのような会議で議論し、これまでとは違う形で世界にアピールしていく島だ」という認識



挨拶される山根計画保全部長

# 熊本市優良防火事業所に選定

5月21日、九州森林管理局は熊本市防災協会から「優良防火事業所」に選定され表彰されました。



表彰状を頂いた小島局長

本来は熊本市防災協会総会開催と併せて表彰式が執り行われるところでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、熊本市消防局西消防署池田庁舎から担当者が当局を訪れ、局長室において小島孝文局長に表彰状を伝達されました。

小島孝文局長から「この表彰を機に今後も訓練等を通じ防火管理に努めていきます。」と御礼の言葉がありました。

(担当：経理課)

# グリーンサポートスタッフが活動開始

【大分西部森林管理署】

4月20日、大分県九重町長者原ビジターセンターにおいて、森林保護員（グリーンサポートスタッフ）の辞令交付式がありました。

大分森林管理署と大分西部森林管理署が管轄している九重連山の国有林では毎年、ミヤマキリシマや紅葉等観光スポットとして賑わいを見せています。

両署を代表して大分西部森林管理署津脇晋嗣署長が、「毎年グリーンサポートの皆様のご尽力に感謝しています。新型コロナウイルスの関連で、



交付式で挨拶される津脇署長



グリーンサポートスタッフの皆さん

山へ赴く観光客、登山者が増加傾向にあり、マナー啓発や高山植物の保護、巡視等業務に引き続き携わっていただきたい」と挨拶。

今年度の活動は登山、観光客が増加する春と秋をメインに11月までの主に平日に活動を行うこととしています。

# 霧島連山夏山開き

【鹿児島森林管理署】

4月25日、霧島連山自然保護協議会による霧島連山夏山

開きが霧島市霧島田口高千穂河原古宮址において開催され、関係者27名が出席し登山の安全祈願を行いました。鹿児島森林管理署からは永山正一署長以下4名が出席しました。



安全祈願の様子

はじめに池上滝一霧島連山自然保護協議会会長（湧水町長）から「コロナ禍で大変な時期ではありますが、霧島連山の自然を守りながら、多くの方に訪れていただき楽しんで欲しい」との挨拶がありました。夏山開きでは当署の永山正一署長も玉串奉奠を行い、登山シーズン期間中における登山者の安全を祈願しました。現在、高千穂峰や韓国岳な

# 梅雨前における防災対策現地視察に参加

【長崎森林管理署】

5月13日（木曜日）に長崎県島原市において、国・県の出先機関、警察、消防の防災関係8機関が集まり、防災対策現地視察が開催されました。この視察は梅雨期や台風などの災害時期を前に防災関係機関による危険箇所現地視察を行い、災害発生時の迅速な連携と対応ができるよう毎年この時期に行われているものです。

島原市では今年、雲仙普賢岳の噴火から30年の節目を迎え、これを契機に日本一の自主防災会を目指しています。当日は古川隆三郎島原市長の「どのように防災対策をしていくかが今後の課題である」との挨拶を受け、各防災機関が事業について説明を行いました。

当署からは、眉山の治山事

業について洲上翔吾治山技術官がドローン撮影した動画をもとに、眉山における治山ダムなどの整備状況を分かり易く説明しました。

その後各現場を視察、実際の構造物による防災対策の効果に加え、現在実施しているヘリコプターによる種子散布並びに今年度の計画について説明を行いました。

その中で島原市長より、市



現場で説明する洲上治山技術官

民の安全・安心のため目に見える形で引き続き計画的な治山事業の実施について要望がありました。

今回の現地視察を通じ、各防災機関がそれぞれの視点で現地を確認することで災害発生時の連携を強化し対応していく事の重要性和ともに、地元における眉山の治山事業に対する期待の高さを改めて認

識する事ができました。

長崎署では、引き続き地域住民の安全・安心のために「現場の声を聴く」取組を徹底するとともに、関係機関、地域住民等との連携、情報の受発信を強化してまいります。

## 国有林防災ボランティア活動事前打ち合わせ会議を実施

【宮崎南部森林管理署】

5月20日、国有林防災ボランティア活動事前打ち合わせ会議を実施しました。

九州林業土木協会登録事業



事前打ち合わせ会議の様子

体から、(有)高橋建設、永野建設(株)、大平開発(株)3社に出席していただき、はじめに、福岡貢史署長から「今年は平年より19日も早い梅雨入りとなっている。近年は全国各地で豪雨等により災害が発生しており、以前と気象状況が変わり注意が必要となってきた。災害の早期発見と迅速な対応が必要であり、関係者による情報の共有や連携が重要である」との挨拶があり、その後、山本正総括森林整備官からボランティア連絡網の確認や災害調査路線の役割分担及び活動実施要領等について説明がありました。

会議の中では、「局地的な大雨の場合地域により降雨量に差がありメリハリのある災害調査が必要ではないか」、「早期の災害写真提供が状況把握するうえで重要」、また、「台風災害以外の大雨後の防災ボランティア要請については、指標を決めておくことが必要ではないか」など、効果的に活動を行うことや改善点など活発な意見が出されました。

毎年のように大雨等による自然災害が発生しており、今後も災害発生が懸念される所ですが、ボランティアの安全確保を前提に効果的な活

動による災害の早期発見と迅速な対応により、地域の安全・安心を確保するため、いつか来る自然災害に引き続き備えて行きます。

## 「森を身近に！森のセミナー」を開催

【熊本南部森林管理署】

4月24日当署会議室において、山の日記念イベント「森を身近に！森のセミナー」を開催しました。

当日は、講師に環境省希少野生動物植物保存推進委員の乙益正隆氏を迎え、一般参加者を含む総勢26名が参加しました。



説明される乙益講師

はじめに、「シダを楽しむ」をテーマとして、乙益正隆氏自ら育てたイワオモダカなど希少なシダ植物について、「特徴や生息地」、「どんな環境で育つのか」や「森林伐採等の影響により数が激減している」などと解説、その後、「皆で育てることが種の保存につながる」との思いから、希少なシダ植物を株分けし希望者に対して配布が行われました。



シダ植物の配布の様子

また、「貴重な植物の話」として、熊本県内でみられる「希少植物の話」や「体調を整える薬草」の話など、先人達の知恵についてユーモアを交えながらの内容で、参加者は興味津々に聞き入っていました。

した。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催取り止めも検討したところですが、平成17年より開催している当署の森のセミナーを、楽しみにしている皆さんから多くの要望が寄せられたことから、十分な新型コロナウイルス対策を講じて開催することとなりました。今後とも地元に着したこの森セミナーを、さらに有意義なものとして開催できるように取り組んでいく必要があることを職員一同、改めて感じたところです。

## 松くい虫特別防除の 地元説明会を開催

### 【鹿児島森林管理】

鹿児島森林管理署では、松くい虫特別防除事業を実施するに当たり、令和3年5月13日に日置市の吹上中央公民館日吉老人福祉センターにおいて地元説明会を行いました。

地元説明会には日置市役所農林水産課5名、当署から片山恵介総括森林整備官ほか関係職員の計4名が出席し、令和3年度特別防除等実施計画松くい虫航空防除実施上の留

意点等について説明しました。

また、コロナ禍であることから、説明会場を限定すると共に密にならないよう感染症対策を実施し必要最小限の人員が参加しました。

説明会には地元住民約10名の参加があり、参加者からは「地域と密に連絡を取ってほしい」「新たに松の植栽を行いたい」などの声が寄せられました。



地元説明会の様子

今年度は5月25日～27日にヘリコプターによる空中散布を予定しており、今後も地元の皆様のご理解とご協力をいただきながら、地域の生活や農地等を守る海岸保安林を保全するために、民有林と連携した防除事業を推進してまいります。

## 「多様な活動の森」における シカネット設置

### 【宮崎北部森林管理署】

去る5月18日「多様な活動の森」において、フォレスト・マントル上鹿川(協定相手)の方々と当署岩下正斉森林整備官ほか職員総勢16名により「鬼の目山生物群集保護林」での保全活動を行いました。

当日はあいにくの霧と雨が降る中、シカネット資材一式をそれぞれが背負子等に背負い約一時間半かけて悪路をひたすら運びました。重い物では約20kgもあり、次の日には筋肉痛や足腰の痛みを訴える者もいましたが、普段署内勤務ばかりの職員にとってはよい運動でもありました。

当該地は平成26年に協定を締結し、鬼の目スギ周辺を始める保護林内の植生回復を図るため毎年シカネットを設置しています。その甲斐あって少しずつ植生の回復が見られ、地道な成果をあげています。今後もこの活動をフォレスト・マントル上鹿川の方々と連携して引き続き取り組んでいくこととしています。



雨の中、保全活動に参加された皆さん

## 「森林経営管理制度」 説明会へ参画

### 【佐賀森林管理署】

5月21日、佐賀県林業試験場(佐賀市大和町)において佐賀県主催による「森林経営管理制度等市町担当者説明」が開催され、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場はあらかじめ午前・午後に分けて換気、手の消毒、出席者の間隔をとって実施され、当署からは副島利博森林技術指導官、植薄和彦地域林政調整官の2名が出席しました。

はじめに、佐賀県農林水産部林業課 永守直樹技術監から「令和元年度からスタートした森林経営管理制度は、市町が主体となります。この制度が円滑に進み、森林整備を推進する後押しになることを期待しています」と挨拶がありました。

講師の、「林野庁森林利用課森林集積推進室 中山昌弘 課長補佐」からオンラインにより説明を受け、森林所有者の意向調査の前年度末現在の進捗状況、その後、制度創設の背景、森林整備の必要性、今後の森林整備の方向性(目指す姿)、集積計画策定までの具体的な実務、取り組み事例等を丁寧に説明していただ



説明会の様子

きました。

出席者からは、意向調査を実施し回答がないケースの取り扱い等について質問があり、地域実情も考慮しつつ丁寧な対応が重要である、との回答がありました。

今回の説明会の内容をしっかり受け止め、この制度を円滑に進めることとし説明会を終りました。

## OJTでセンダンの芽かきを実施

【宮崎南部森林管理署】

センダンは極めて成長が早くケヤキ・キリの代替材として家具材等に使用されることが



OJTの様子



高いところは協力して

多く、材価はスギ、ヒノキに比べ高値で取引されており、短伐期で収入が得られる早生樹として期待されています。当署では、平成31年3月に皆伐跡地の林縁に20本植栽し育成しているセンダンの芽かきを5月25日にOJTも兼ね職員7名で実施しました。

当日は、梅雨の晴れ間で蒸し暑く、コロナの関係でマスクを着用しての作業に加え、今回は頂芽以外の芽（側芽）を全て切除する必要があります。成長の良いセンダンは4m近く有り脚立を使って悪戦苦闘しながらの作業となりました。植栽してから2年が経過し、平均の根元径は2.8cm（最高5.1cm）で樹高は2.43

m（最高3.91m）となり、おり、職員が手をかけて育成しているセンダンの今後の成長が楽しみです。

## 「虹の松原」松くい虫防除（空中散布）を実施

【佐賀森林管理署】

5月26日早朝、佐賀県唐津市の「虹の松原」国有林（約210ヘクタール）のうち約143ヘクタール）で、関係行政機関、地元団体などの協力を得て、松くい虫防除（空中散布）を実施しました。（人家、宿泊施設、保育園周辺など空中散布が出来ない箇所では、18日及び19日に地上散布



空中散布の様子

（約65ヘクタール）により実施。）

当初、5月25日空中散布予定でしたが、26日に順延となり、当日は天候に恵まれ予定どおり実施しました。

当日の実施体制は、署職員のほか佐賀県、唐津市、漁協組合、地元駐在員等の協力の下、本部のほか19地点に担当者が配置され、各地点の風速・風向きを計測するとともに県道等の交通規制を行い、5時過ぎから松くい虫防除散布を開始しました。鏡山の無線中継所からは、11回のフライトが順調に進んでいる様子が確認でき、約2時間で無事終了しました。



地上散布の様子

「虹の松原」の松くい虫被

害は、平成4年度に2334本の被害が確認されましたが、以降は減少しており、昨年度は126本と低水準に抑えられています。

当署では、国指定の特別名勝である虹の松原を保全することは重要な課題であると考えています。今後とも、地元住民などに対して松原の公益的機能の役割と景観保持の重要性を周知し、佐賀県、唐津市、ボランティア、地元各団体や地域住民の協力をいただき、「白砂青松」虹の松原再生・保全に取り組んでいくこととしています。

「緑の基金」にご協力いただき、ありがとうございました。

- 一般社団法人 九州林業土木協会 様
- 一般社団法人 林道安全協会九州支部 様
- 一般財団法人 日本森林林業振興会熊本支部 様
- 一般財団法人 森林・林業調査研究所九州支部 様
- 九州国有林採石協会 様
- 九州国有林林業生産協会 様
- 株式会社 森和 様

# 「名瀑に滴る森林」として紹介される

レクの森・尾鈴探勝地

【西都児湯森林管理署】

西都児湯森林管理署管内には、国の名勝に指定されている「矢研の滝」をはじめとする瀑布群があり、天然林・溪流・奇岩等とともに織りなす

渓谷美等の優れた景観をもつことから宮崎県立自然公園の指定を受けています。また、当地区は宮崎市近郊からのアクセスもよいことから、瀑布群と渓谷美の探勝キャンプ場の好適地として「レクリエーションの森・尾鈴探勝地」として設定されており、地域住民や観光客からも親しまれる森林や大小からなる滝もあることから、人々の憩いの場として親しまれています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い訪れる人も少なく寂しい森林でありましたが、この夏には、更なる美しい森林と瀑布群が皆様方を待っていると思います。

最近では、地域の大手企業からのコマージュ撮影申請があり、レク森林における、新緑の森を流れる尾鈴渓谷、豪快に飛沫をあげる矢研の滝

(落差・73m)、木々を濡らす涼やかな飛沫等々を撮影され、現在、テレビコマージュルとして放映されています。これらの取組は、現在の社会状況から「心と身体のリ



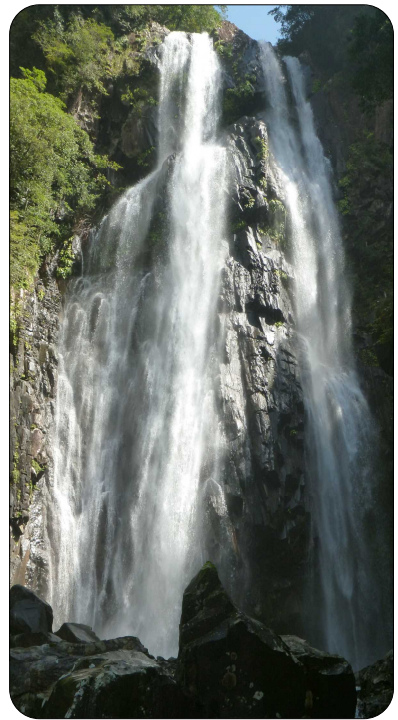
池本 真一さん



池本真一さん

皆様、こんにちは！コロナ禍の中、体調変わりなくお過ごしでしょうか。今は「辛」を抱える時期と共に先を見据える時期でもあるかと私は公私共に考えています。まず初めに私の自己紹介させて頂きます。生まれは鹿児島県志布志市、福岡県北九州市出身、建設資材メーカーに勤める中年の会社員です。

モニター応募に至ったキッカケは、仕事で森林に少し関わることがあり治山事業や災害時に建設資材を納入



国の名勝「矢研の滝」

## モニターを通して次世代へ繋ぐキッカケづくりを目指し続ける

していることです。また休日には森林に近い場所にてボランティアで自然観察やスポーツ等の活動に関わっています。その傍ら、次のように感じていることがあったからでした。

昔より自然と私たちの日常生活において自然との調和を保ってきた里山・里地・里海といった地域循環共生が、現在では山間部を切り開き都市開発が進み昨今の気候変動により大きな災害を発生させ、生態系をも乱す一因になっているのではと私は考えています。そうした中でも森林管理署等では森林を通して地域全体の事を考え調整する役割を担っている事を林野庁のホームページや広報誌を通して知ったからでした。一見、私たちと身近にある市役所などの官公庁と違って遠い存在に思える事が、実は根本のところでは近い存在に感じるように思えました。

「日常生活において私たちが含め世代間問わず情報の洪水と言われながらもコミュニケーション不足等が挙げられる事があります。森林を通して興味・関心を持って他人を思いやる心(利他の心)の醸成・コミュニケーションの促進や健康寿命の増進(森林レクリエーション、森林セラピー)等が図ればと考えています。

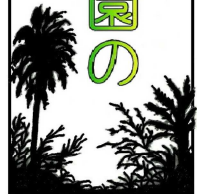
私はモニターとして他人事は自分事・頼まれ事は試され事として捉え筋を通す(プリンシプル)、関わる皆様の長所を見出し内なる力(レジリエンス)が引き出せる活動が出来ればと感じています。日常生活において私たちが取り巻く自然環境・社会環境・経済環境等は目まぐるしく変化し社会課題も潜在化から顕在化、多様化しています。私は老若男女問わず持続可能な社会の実現を目指すキッカケをつくる為、出来る範囲で出来る事から次世代へ繋ぎ、継続・実践していきたいと考えています。

日常生活において私たちが含め世代間問わず情報の洪水と言われながらもコミュニケーション不足等が挙げられる事があります。森林を通して興味・関心を持って他人を思いやる心(利他の心)の醸成・コミュニケーションの促進や健康寿命の増進(森林レクリエーション、森林セラピー)等が図ればと考えています。

私はモニターとして他人事は自分事・頼まれ事は試され事として捉え筋を通す(プリンシプル)、関わる皆様の長所を見出し内なる力(レジリエンス)が引き出せる活動が出来ればと感じています。日常生活において私たちが取り巻く自然環境・社会環境・経済環境等は目まぐるしく変化し社会課題も潜在化から顕在化、多様化しています。私は老若男女問わず持続可能な社会の実現を目指すキッカケをつくる為、出来る範囲で出来る事から次世代へ繋ぎ、継続・実践していきたいと考えています。

(福岡県北九州市在住)

# 監物台樹木園の 多様な植物



163

## サワラ(ヒノキ科)

私は林業科を卒業して  
います。学生の時、基礎学習  
において、木曾の5木(ア  
スナロ、ヒノキ、ヒバ、ネ  
ズコ、コウヤマキ)、日本  
の三大美林(木曾のヒノキ  
青森のヒバ、秋田のスギ)  
等一生懸命に暗記したこと  
を思い出します。

サワラの特徴は、ヒノキ  
に似ていますが、十文字対  
生の側葉が外側へはみ出し  
ていることです。手で触る



と飛び出していていることを感  
じることが出来ます。

これよりも視覚的な特徴は、  
葉裏の白い模様(白く見え  
る気孔)がX状に見えるこ  
とです。気孔の判断は、ヒ  
ノキY字型、サワラX型、  
アスナロW型となっている  
ので、この木は何だろうと  
思ったら葉裏の気孔を観察  
します。

九州に少ないサワラを身  
近に観察することができま



す。熊本市、金峰山登山途  
中、峠の茶屋から500m  
ほど登った右手に保護林が  
あり、胸高直径40cm前後  
の太木を観察できます。保  
護林の「山の神」を祭って  
ある入口にあり、意識して  
観察しないと樹皮がスギに  
似ていまずので見過ごして  
しまいます。

森林インストラクター  
安染 行雄



転動は非常に苦勞す  
るが、一方で新天地に  
てその土地の文化や自  
然に触れることができ  
る。そこならではの食  
べ物を味わったり、生  
き物を探したりするの  
が楽しみの一つになっ  
ている▼今春異動があ  
り、自然豊かな離島に  
転動することになった  
のだが、来て数日で大  
自然の洗礼を受けた。  
浴室に大きなクモが現  
れたのだ。ゴキブリの  
天敵で有名なアシダカ  
グモである。害虫を捕  
食してくれる存在はあ  
りがたかったのだ、ク  
モと共存することに決  
めた▼ところが、その  
クモは浴槽の中がお気  
に召したらしく、数日  
経ってもそこから移動  
しようとしなかった。  
クモを刺激したくなかつ

たので、浴槽はクモに  
進呈し、シャワーのみ  
使うことにした▼ある  
朝、浴槽の中でクモが  
縮こまって動かなくな  
っていた。唐突な同居人  
の死に、一抹の寂しさ  
を覚えながらシャワー  
を浴びていると、浴槽  
の影から一回り大きな  
クモが飛び出してきて  
肝をつぶした。どうや  
ら、浴槽の中の残骸は  
脱皮殻だったようだ▼  
現在そのクモは浴槽を  
飛び出し、台所に佇ん  
でいたり寝室の壁に張  
り付いていたり、神  
出鬼没に家中を徘徊し  
ている。この先色々な  
生き物が家に入ってこ  
るだろうが、この地な  
らではの出来事として  
楽しんでいきたい。  
【は】

